



食と農
をつなぐ
アワード
2025

食から日本を考える。
NIPPON
FOOD
SHIFT



農林水産大臣賞

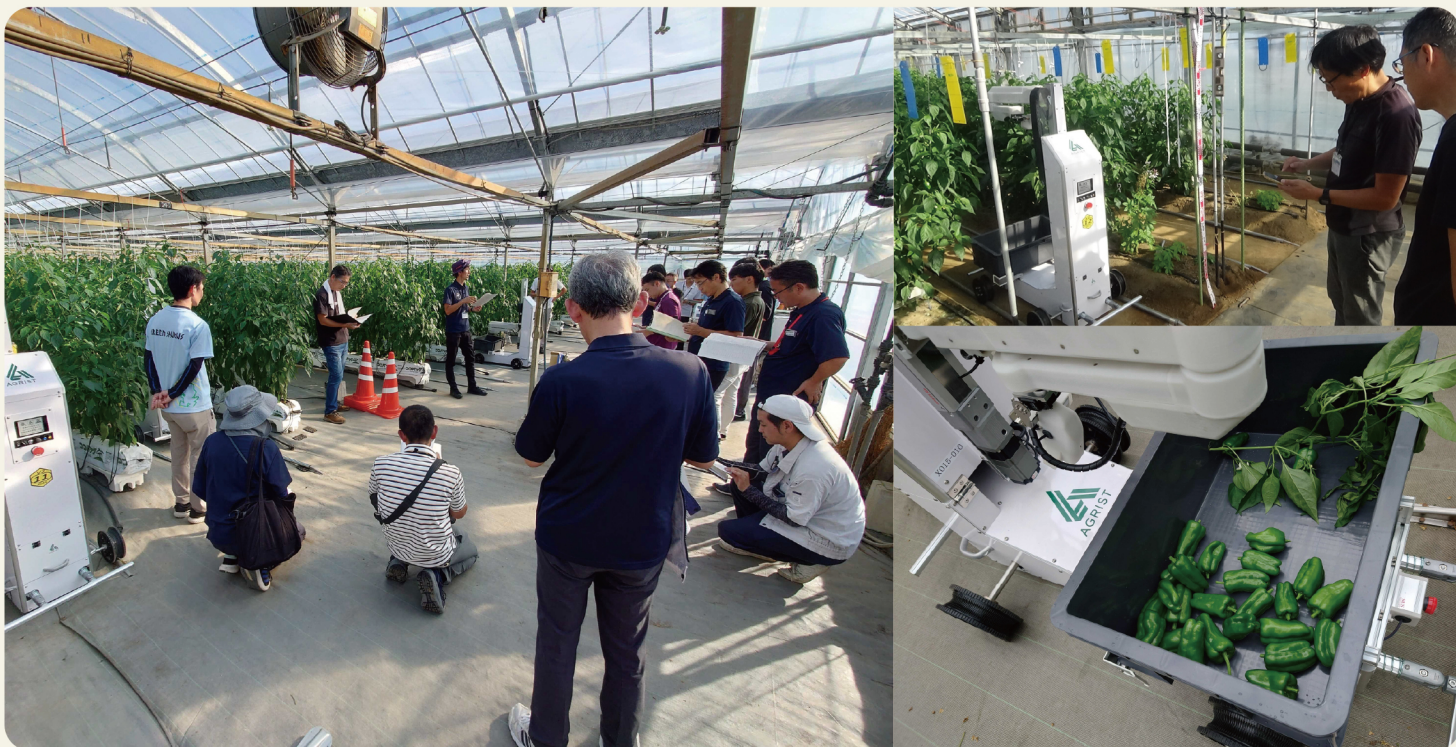
部門
04

スマート農業技術等の開発・普及

AGRIST 株式会社

G7 から始まる官民連携農業プロジェクト創出事業

～自動収穫ロボットの産地導入に向けた官民農業者の連携～



地元生産者、宮崎県農政水産部と連携し、ピーマン収穫ロボットの導入実証を実施。生産者が直接運用することで現場の課題を洗いだし、かつ、ロボットが収穫しやすい方法も分析することにより、ディープテックと農業現場の知見を組み合わせた持続可能な農業モデルを構築。

概要

- 従来の農作業の効率化と持続可能性を向上させ、労働力の負担軽減と収量増加を目指して実証を開始。
- ピーマンの産地である宮崎県をモデルケースとして、県農政水産部や地元生産者と密接に連携。農業者が主体的にロボットを運用することで、現場に即した課題解決とノウハウの蓄積を図り、地域全体での持続可能な農業の実現を目指す。
- 宮崎県でのモデル事業が、群馬、岩手、北海道などへ移行し、全国へ展開している。

成果

- 開発者と農業者が連携するだけでなく、農業者自身がロボットを運用する体制を構築したことにより、現場の知見を直接フィードバックできるため、ロボットの性能向上と並行して、収穫しやすい栽培方法の特定が可能となった。
- 人手不足の解消や収量増加といった直接的な経済効果に加え、ロボットが収集するデータを活用した病害虫の早期発見・対応がAIを活用して提案。これにより、持続可能な農業が全国に展開され、農業従事者の負担軽減と地域活性化に大きく貢献。

基本情報

事業開始年度：2023 年

活動年数：3 年

活動地域：宮崎県宮崎市、新富町

審査委員からのコメント

ロボット農機の開発から技術実証・社会実装の新たなプロセスを提案・実施している点は面白い。メーカーと農業者の協業が基本であるが、自治体が能動的に関与することで円滑な協業体制が構築されていることは素晴らしい。農業ロボット開発の一つのモデルになると判断する。